教授/Professor	オフィスアワー/Office hours	研究室/Office number
国武陽子/Yoko Kunitake	火曜・木曜昼休み、金曜２限	F306（F 棟３階）

教員の所属学会並びに社会活動・課外活動顧問など/Affiliated Academic Society & Social Activity

日本生態学会

ゼミ名/Seminar

地域実践研究ゼミ（地域生態系保全、持続可能な社会への取り組み）

２年次までに修得していることが望ましい科目/
Preferable courses should be taken before the end of second-year studies

必須ではないが以下の科目の修得を推奨する（三年生以降の履修でも可）
環境生態学、統計学の基礎知識、地域生態系保全論、地域振興論

研究指導内容とその進め方/Teaching system and content

本ゼミでは卒業研究と地域での活動を通じて、実際に地域の環境や社会と関わり合いながら、自ら学び行動することを最も大切にしている。
二年間で地域の課題をテーマにし、フィールドワークを中心とした卒業研究を行う。研究を通して、課題を設定し、実際に自分でデータを取り、分析し、データから何がいえるかを考察することを通じて、自分が本当に知りたいことを深く学び、アウトプットすることを経験していく。3 年次から、グループでプロジェクトベースの活動を行う。その中で、協調性、計画性、実行力を身につけていく。

（今までの研究・活動の例）地域の里山の希少種の保全、学生カフェ運営、子ども食堂の支援、地域の防災研究、キャンパス内の外来種コントロール研究、企業と連携した自然保護活動、地域の獣害問題の調査、地域の子供の自然教育活動への貢献、地域におけるグリーンインフラに関する研究、地域の企業との交流やコラボレーションなど。

Ⅰ．初年度（３年次）/First year(third-year students）
・前半：卒業研究のテーマを決めるための準備期間として基礎的な訓練を行う。具体的には情報の集め方、学術文献の読み方、研究計画の立て方、研究とは何かなど、卒業研究に必要な研究リテラシーを学ぶ。論文紹介も行う。
・後半：テーマを決めるために文献を読み、地域のことを調べ、地域の里山での活動に参加し、フィールドワークの経験を積む。実際に調査等を開始する。少人数のグループでプロジェクトベースの活動を地域にでて行う。

Ⅱ．次年度（４年次）/ Second year（fourth-year students）
・前半：研究およびグループの活動を進めながら、数値データの扱い方、統計解析方法、グラフや表の書き方などを学ぶ。
・後半：卒業論文の書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。

Ⅲ．卒業論文の指導、その他指導について/Graduation thesis guidance and others
卒業論文の指導や研究指導はゼミの時間に限らず行う。

教科書、参考書などについて/Textbooks, reference books

事前に必要なものは特に指定はしない。2 年間では多くの文献を読んでもらう。

ゼミライフ：(合宿、ゼミ会等)/Seminar activities(meetings, training camps）
本ゼミは３，４年生合同で行う。
各人での卒業研究のテーマはもつが、ゼミ生で協力し合って地域での活動やフィールドワークを行うので、ゼミ生が一緒に過ごす時間は非常に長く、コミュニケーションを大切にできることがのぞまれます 。

ゼミ生に対する要望・注意等/Requests, comments
自ら学び、知識を生産することの楽しさを知ってみたいという学生を歓迎します。また、企業や地域の方々など学外の方と接するので、自分の役割に責任を持ち、自分から研究を前に進めていく意欲のあることが重要です。**グループワークが多いので他人に頼り切りで自分は何もしない人はこのゼミには向きません。強化部での部活があっても一人一人の責任は果たしてもらいます。ゼミの時間以外にも活動や研究に時間を費やせることが要求されます。**